

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21050

建築物名称	(仮称)GOTEMBA新築工事(Phase1、2)
建築主	御殿場特定目的会社 取締役 北川 久芳
建築物の所在地	川崎市幸区新小倉545番50
設計者氏名、建築士事務所名	小林 利道 株式会社大林組 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	17,348.24㎡
用途	事務所
構造	鉄骨造
階数	地上6階
工事完了年月	令和5年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)GOTEMBA新築工事(Phase1, 2)	階数	地上6F
建設地	川崎市幸区新小倉545番50	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年11月 竣工	評価の実施日	2022年2月28日
敷地面積	9,309 m ²	作成者	一瀬 直樹
建築面積	4,978 m ²	確認日	2022年2月28日
延床面積	17,348 m ²	確認者	小林 利道

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 81%</p> <p>③上記+②以外の 81%</p> <p>④上記+ 81%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.4</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.6/4.3	3.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.4
Q-1 ■ 室内環境対策	-		
2 2.1 2.1.2 外皮性能	・断熱性能の高い躯体構成及び窓材を使用している。	0.5/0.7	3.6
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出		1.4/2.3	3.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用している。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	・BPI=0.60 / BEI=0.74		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
1 水資源保護	・自動水栓に加えて節水型便器を採用	3.6/4.7	3.9
2 非再生性資源の使用量削減	・機械式継手、BCP等を採用している。		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	・不活性ガス消火設備である。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策	-		
2 2.2 部品・部材の耐用年数	・耐用年数の長い内装仕上げ材を使用している。	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
1 水資源保護	・自動水栓に加えて節水型便器を採用	3.1/4.0	3.9
2 非再生性資源の使用量削減	・機械式継手、BCP等を採用している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出		1.4/2.3	3.0
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用している。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	・BPI=0.60 / BEI=0.74		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策	-		
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用している。	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	・BPI=0.60 / BEI=0.74		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.35		-	3.3
1 音環境							3.8	0.15		3.8
1.1 室内騒音レベル							3.0	0.40		
1.2 遮音							4.6	0.40		
1 開口部遮音性能					開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60		
2 界壁遮音性能					Dr=40		4.0	0.40		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音					二面に吸音材使用		4.0	0.20		
2 温熱環境							2.6	0.35		2.6
2.1 室温制御							3.5	0.50		
1 室温							3.0	0.38		
2 外皮性能		W			断熱性能の高い外皮材料を使用		5.0	0.25		
3 ゾーン別制御性							3.0	0.38		
2.2 湿度制御							3.0	0.20		
2.3 空調方式							1.0	0.30		
3 光・視環境							3.3	0.25		3.3
3.1 昼光利用							2.4	0.30		
1 昼光率							2.0	0.60		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備		W					3.0	0.40		
3.2 グレア対策							3.0	0.30		
1 昼光制御		W					3.0	1.00		
3.3 照度							3.0	0.15		
3.4 照明制御					1作業単位で照明制御でき、リモコンで調整		5.0	0.25		
4 空気質環境							3.9	0.25		3.9
4.1 発生源対策							4.0	0.50		
1 化学汚染物質					天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00		
4.2 換気							3.6	0.30		
1 換気量					換気量は30m ³ /h・人		4.0	0.33		
2 自然換気性能							3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮					給気は、各種排気と同方位であるが6m以上離れている		4.0	0.33		
4.3 運用管理							4.0	0.20		
1 CO ₂ の監視							3.0	0.50		
2 喫煙の制御					全館禁煙		5.0	0.50		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.6	
1 機能性						3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1	広さ・収納性					1.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応					3.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画					3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.3	0.30	-	-	
1	広さ感・景観				天井高: 2.9m以上	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース				リフレッシュスペース: 1%以上、自動販売機を設置	5.0	0.33	-	-	
3	内装計画					3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				維持管理に配慮した設計を行っている	4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.3	0.30	-	-	4.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する	5.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				免震装置を採用している	5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		耐用年数の長い配管材を使用	4.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						4.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				吊配管による地震時の影響低減などの対策	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				非常用発電機の設置、電源設備の地下設置回避等	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				耐震クラス:Aクラス	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				精密機器の地下設置回避等	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり						4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり				階高: 3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ				壁長さ比率: 0.3未満0.1以上	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.35	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出				G	W					
						3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						
						3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
						2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					
						3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.6		
LR1 エネルギー									0.40	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用	W	H		3.0	0.10	-	-	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEQ][BEIm] = 0.74	3.6	0.50	-	-	-	-	3.6	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	-		
	4.1 モニタリング	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-		
	集合住宅の評価						-	-	-	-		
	4.1 モニタリング	W	H				-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制	W	H				-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル									0.30	-	-	3.8
1	水資源保護	W	R		3.4	0.20	-	-	-	-	3.4	
	1.1 節水			自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減				4.0	0.60	-	-	-	-	4.0	
	2.1 材料使用量の削減	W	R	機械式継手、BCP等を採用	4.0	0.11	-	-	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.22	-	-	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		3.0	0.22	-	-	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R	磁器質タイル、ボード、フリーアクセスフロア	5.0	0.22	-	-	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R		-	-	-	-	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	-	-	3.7	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	-	-		
	1 消火剤	W		不活性ガス消火設備を採用	4.0	0.33	-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	W		吹付硬質ウレタンフォームA種	5.0	0.33	-	-	-	-		
	3 冷媒	W			3.0	0.33	-	-	-	-		
LR3 数地外環境									0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮	W		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.7	0.33	-	-	-	-	3.7	
2	地域環境への配慮				3.5	0.33	-	-	-	-	3.5	
	2.1 大気汚染防止			燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25	-	-	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		3.0	0.50	-	-	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-	-		
	1 雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	-	-	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-	-	-		
	3 交通負荷抑制		R	駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	4.0	0.25	-	-	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制		R		2.0	0.25	-	-	-	-		
3	周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	-	-	3.2	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-		
	1 騒音				3.0	1.00	-	-	-	-		
	2 振動				-	-	-	-	-	-		
	3 悪臭				-	-	-	-	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-		
	1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-		
	2 砂塵の抑制						-	-	-	-		
	3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-		
	3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	-	-		
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-		